


Mima RC 週報
Weekly Report

国際ロータリー2670地区
 例会場：森友
 毎週火曜日 19:00~20:00

出席報告

会員数	会場出席	ZOOM	欠席	メーキャップ	修正合計	出席率
35	20		15	0	20	57.1%

2025-2026年度 第 24 回 例会プログラム

開会点鐘 19時 四つのテスト／我らの生業
 ゲスト いません
 会長の時間／幹事報告／委員会報告／卓話／スマイルボックス発表

会長の時間



二十四節気（にじゅうしせき）は、太陰暦（旧暦）の季節のズレを補正し、太陽の動きに基づいて1年を24等分して、農作業や生活の目安にするために古代中国で考案された暦です。春・夏・秋・冬の四季をさらに細かく分け、約半月ごとの季節の節目を示すことで、田植えや収穫、行事などを適切な時期に行うために役立てられました。

なぜ必要とされたのか？

太陰暦のズレの補正：当時使われていた太陰暦は月の満ち欠けで日付が決まるため、実際の季節（太陽の動き）とズレが生じました。

農業の最適化：季節の変化を正確に捉えることは、農作業（種まき、田植え、収穫など）の時期を見極める上で非常に重要でした。

より細かい季節の把握：季節の節目を8つ（八節）からさらに細かく24に分けることで、より精緻な季節の感覚と指標を得るため。

どうやって決まるのか？

太陽の動きが基準：1年（地球が太陽の周りを一周する時間）を太陽の黄道上の動き（黄経）で24等分し、15度ごとに名前（節気）をつけます。

「定氣法（ていきほう）」：現在は、この太陽の黄経に基づいて、国立天文台が計算して翌年の日付を決めています。

まとめ

二十四節気は、太陽の運行を基盤に、昔の人々が自然のサイクルと密接に結びついた生活・農業を営むために作り出した、精緻な季節の指標システムなのです。

幹事報告

到着週報：阿波池田 RC 鴨島 RC

・例会終了後、理事会を開催いたします。

委員会報告

田村副親睦担

「1月24日は香住に蟹を食べに行く親睦旅行を予定していましたが豪雪の恐れがあります。そのためキャンセルの可能性も考えており、また報告いたします。」

藤岡会計

「後期会費の引き落としを28日にいたします。よろしくお願ひいたします。」

矢野親睦担当

「1月の本人誕生日は8日伊庭会員、20日東谷会員。配偶者誕生日は11日廣川会員。結婚記念日は8日伊良原会員です。おめでとうございます。」



卓話



本日は卓話のお時間をいただき、ありがとうございます。自己紹介を兼ねて、これまでの歩みや、いま取り組んでいること、そしてこれからについて少しお話しさせていただきます。

私は吉野川市山川町で、父の代から印刷会社を営んでおります。家族は両親と、今年中学生になる娘がひとりおります。性格は人見知りで、お酒を飲まないと話が弾まないタイプです。趣味は推し活で、KPOPアイドルが好きです。今年、一番の推しが兵役から戻り、6年ぶりに日本でコンサートをする予定で、それはもう楽しみにしていたのですが、なんと日程が美馬

ロータリーの周年事業と重なりました。迷いは一瞬でしたが、コンサートは諦め、周年事業を優先いたします。

少し生い立ちに触れます。穴吹町に生まれ、穴吹小中学校、脇町高校へ進学しました。小中高ずっとバレーボールに励みました。今も娘のバレーボールチームのお手伝いをさせてもらい、週2回体育館で汗を流しています。大学は高知大学へ進みました。教育学部で保健室の先生の免許を取得しましたが、学生時代はあまり勉強に熱心ではなく、大学で覚えたのは、お酒と人付き合いくらいです。ただ、人を観察したり、対話をしたり、コミュニティに関わったり、そうした大学で得たものは後々の仕事に繋がっていました。

大学卒業後は徳島へ戻り、教員にはならず、徳島駅前にある徳島第一ゼミという学習塾に勤めました。そこで担当したのは高校生向けのDVD授業で、進路指導や学習アドバイスを行う仕事でした。年末年始は勉強合宿を行い、受験生と共に年を越したり、有名な講師の特別授業を企画したり、イベントの多い楽しい塾でした。進路相談や、模試の結果に一喜一憂し、合格の報告には一緒に泣いて喜んで、子どもさんの人生の大変な時期に寄り添って伴走して、ともに真剣に取り組んだ時間は、今でも大切な経験です。

一方、家業の印刷会社ですが、父が平成8年に独立し、官公庁や企業の伝票など、様式の決まった紙の印刷を主に行っていました。ですが、世の中のデジタル化が進むなか印刷単価は落ち込み、さらに追い討ちとなったのが平成16年の台風23号でした。自宅も会社も床上1.5mほど浸水し、印刷機械は故障し、自宅も住めなくなり建て直しをしました。あの時は家族全員が泥と格闘し、気力も体力も試される時期でした。けれど振り返ると、あの経験が家族や仕事への向き合い方を変え、会社に入るきっかけにもなりました。たくさんの周囲の人が手伝ってくれたことも、地元に帰る決定打となりました。

塾を6年間勤めた後、家へ入り印刷の仕事を手伝うようになり、まもなく地域のフリーペーパーMEELの制作を始めました。学習塾では子どもや保護者を相手にしていましたが、今度はお店や会社の方々に営業するという、全く新しい世界で、最初は本当に苦戦しました。取材、撮影、販促、広告、デザインと、未経験のことばかりでしたが、お客様に必要とされることを現場で覚え、形にしていきました。おかげさまで今では、印刷だけでなくホームページやネット広告、イベント企画、映像事業など幅広くお声掛けいただけるようになりました。特に最近は、ネットの世界のスピードがとても速く、ついていくために毎日勉強しています。

昔はひとりで身につけていくしかありませんでしたが、今はプログラマーやカメラマンなど、良い仲間に恵まれ、協力することで自分の何倍もの成果を世に出せるようになりました。地域の小さな会社でも、情報発信の中心になれるという実感があります。皆様にも、なにかお手伝いできることができたら、お気軽に声を掛けていただければと思います。

地元へ戻ってからは、JCや商工会にも参加し、地域の若手と交流し、学ぶ機会もいただきました。今はそれらも年齢で卒業し、唯一の青年部員として50歳までいられる法人会青年部に所属しています。法人会青年部では、小中学生に向けて租税教室を行っています。昨年11月にはその取り組みを全国大会で発表する機会をいただき、三好さん、部員の皆さんと山梨の舞台で発表をしました。結果は振るいませんでしたが、全国の事例を聞き、大舞台に立った経験は何よりの財産でした。

ロータリー活動にはまだ積極的に参加できていない私ですが、あと三ヶ月を切った周年事業に向けて、皆さんと一緒に気持ちを一つにしながら取り組めればと思っています。できることはもちろん、未経験のことも喜んで挑戦し、それを経験に変えていく所存です。どうぞよろしくお願ひします。

スマイルボックスの発表

廣川会員「妻の誕生日ありがとうございます。結婚して50年以上過ぎましたがお互い100歳を超えるまで頑張りたいと思います。」

次回例会

1月23日 19時～ 場所 森友

※出欠連絡は前日までに幹事までご連絡ください。